

2010年 秋号

第71号

僧伽編集委員会

〒921-8031
金沢市野町2丁目32-4
徳法寺内
TEL (076) 241-5219
題字 本多 千翠

うもっようもっ
卵毛羊毛のさきにいるちり
ばかりもつくるつみの、
宿業にあらざということなし

歎異抄 第十三条

イ僧 イ伽



歎異抄

親鸞聖人亡き後、聖人の言葉を語り継いだ貴重な著作。唯円の作とされている。

ザ・コーヴ

常徳寺 西山 彰

話題の映画「ザ・コーヴ」(日本語で「湾」のこと)を見に行った。日本のイルカ猟に反対するアメリカ映画である。正直言って日本人にとって、不愉快極まる映画であった。

舞台は、和歌山県の太地町という小さな漁村である。製作者は、立ち入り禁止区域に侵入し、イルカが殺される映像を隠し撮りしたものを映画化したのである。

確かにイルカが殺されている映像は衝撃的で、目を背けたくなるほど残酷である。しかし太地町の人々として好きでやっているわけではない。イルカに漁場を荒されるので、生活のためにやむなく行っているのである。

そもそも日常的に肉や魚を口にしている者に、太地町の人々を批判する資格があるだろうか。残酷かも知れないが、これが人類が生きているということの現実だと認めざるを得ないのではないか。そんなことを真つ先に思った。しかし映画を見終わった後、私は不思議な感情に包まれた。それは映画が進行するなかで、シー・シエパードなどに代表される過激な動物愛護団体の思想の一端を知ることができたからだ。

もつとも、シー・シエパードは、

「海洋やくざ」と揶揄されるように、活動の本当の目的は金であり、動物愛護は口実だと言われている。しかし、たとえそれが事実であつたとしても、そのような団体を支えているのは、その考えに同調する大多数の純粋な人々なのである。以下はその「純粋な人々」に対する考察である。

イルカという高度な頭脳

を持った生物が殺されていくのは、見るに忍びない。その野蛮な行為をやめさせたい。彼らの動機はそれだけなのである。それは悲しいほど純粋な思いなのである。そしてその行為は、生命に対する冒瀆であると言われればその通りであろう。黙って見過ごすことは、それを肯定することに他ならないのだと彼らは言うのだろう。困ったことにその限りにおいて、彼らの正義を否定できないのである。

そう思ったとき、私たちの身近にある「正義」というものについて、しばし考

え込まざるを得なかつた。

この映画の主役リック・オリバーは「わんぱくフリックパー」というイルカを主人公にしたテレビドラマに出演した俳優兼調教師である。(私もこのドラマを幼いころ見た記憶がある。)彼は当時可愛がっていたイルカを死なせてしまった。そのことが彼を「イルカ解放」運動に向かわせたと言ふのだ。

その話を聞いて私は「志村動物園」という現在放送中のテレビ番組のことを思った。そこには「パン君」という愛らしいチンパンジーが登場し、人気を博している。人間と同じようなことができて確かに可愛い。もし仮に世界のどこかでこのようなチンパンジーが大量に殺されていたらその肉が食用として売られていたとしたらどうだろうか。実際に現場に出かけていって妨害活動をすればどうかは別にして、大変心が痛むだろうと思う。

そう考えたとき、動物愛護の運動にのめり込んでいく人々の気持ちがあつたように思えたのである。

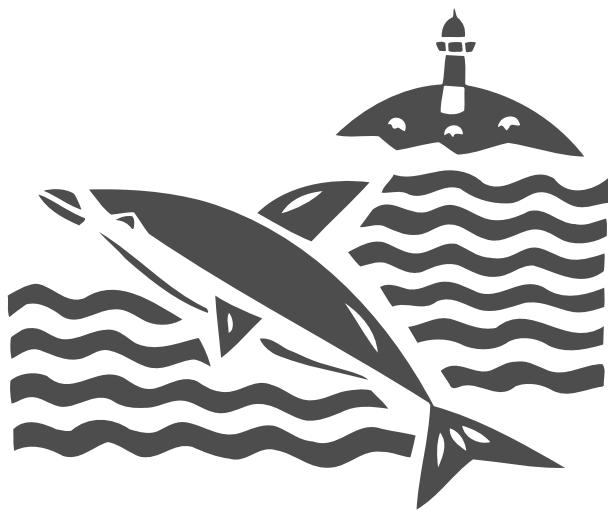
イルカを水産資源と見るか、我々の仲間と見るかの違いは大きい。つまりどこで線を引くかである。それは牛や豚を家畜と見るか、友達と見るかの違いといつてもよからう。

彼らはその線引きの基準をイルカの「高度な能力」に置いた。その点において人間に近い生物であり、殺してはいけないとしたのである。しかしこの基準は、考えてみると恐ろしい基準である。なぜなら裏を返せば、高度な能力を有さない動物ならいくら殺してもよいということでもあるからだ。

少し考えれば分かるように、「殺す」ということが正当化される基準などもともとなないのだ。彼らの独善性は、基準のないところに勝手に基準を設けて他を非難

しているところにある。本来非難を免れる人も、非難する資格を有する人もいないのではないだろうか。だとすれば、我々に許された選択肢は、不条理は不条理としてそのまま見つめ続けるといふことだけなのだろうか。そう考えると暗澹たる気持ちにさせられる。

ともあれ、イルカ殺しを非難する人と、非難に抗議する人という構図でこの映画を眺めると意外に面白い。そういう意味では、観客も巻き込んで、深く人間を描いた映画であるとも言えるだろう。この作品がアカデミー賞を受賞したのは、もしかしてこの点が評価されたのだろうか。



真宗人物伝

第二十回

徳法寺 杉谷 浄

親鸞の弟子・真仏

関東における親鸞聖人の有力な弟子である二十四輩の内、前々回に取り上げた第一の性信に続いて、今回は第二の専修寺の真仏です。

生まれは性信と同じ常陸国(茨城県)です。出自には諸説ありますが、真壁の豪族椎尾氏の出身で、俗名は椎尾弥三郎春時であるというのが一般的です。現在も茨城県桜川市に真壁町椎尾という地名が残っていますから、名の通った一族の出身であることがわかります。一二〇九年の生まれですから、親鸞聖人よりも三十五歳も年下です。親鸞聖人が関東に来られたのが四十二歳

ですから、当時真仏はまだ七歳であつたことになり、さすがにこの年で弟子になることは無理があります。ですから、実際に弟子入りしたのは親鸞聖人が五十歳を過ぎてからだと思われ、すでにその頃、親鸞聖人には多くの弟子がおられましたから、兄弟子たちもたくさんいたはず、弟子の二番目に挙げられるということは、その才能が並はずれたものであつたことを窺わせます。伝記によりますと、十五歳で親鸞聖人に師事し、十六歳で親鸞聖人のもとで得度したと言われます。十八歳の時に親鸞聖人の命によつて京都に入り、興正寺(佛光寺)の寺主となつ

たとあります。二十三歳で興正寺を弟子の源海に譲つて下野国高田如来堂(のちの専修寺)を継ぎ、諸国をめぐつて浄土教を広める一方、東北では当地で広まつていた異義を正したとされます。これが事実であるとすれば、弟子になつてわずか三年で京都の寺を任せられ、親鸞聖人が京都に帰られる時、入れ違いに関東に呼び戻されたことになります。これは親鸞聖人がいかに真仏を信頼していたかを表しています。少なくとも、残されている親鸞聖人が真仏に宛てた手紙を見ますと、真仏がかなり仏教の知識を持つていたことは間違いありません。

真仏が亡くなったのは五十歳の時でした。親鸞聖人はこの時まで健在で八十五歳でした。当時としては五十歳という年齢は決して早くはないのですが、九十歳まで生きられた親鸞聖人から見れば、後を託すべき弟子が先立つといふのは、ずいぶんとつらいことであつたことは想像に難くありません。

東西の本願寺では真仏の扱いは決して重いとはいえませんが、真宗十派の内、専修寺を本山とする高田派、佛光寺を本山とする佛光寺派、興正寺を本山とする興正寺派の三派では真仏を親鸞聖人に次ぐ宗派の二世として大切に扱っています。本願寺第八世の蓮如上人が本願寺を巨大教団にするまでは、高田派の高田門徒と、佛光寺派と興正寺派の荒木門徒が浄土真宗の中心的存在でした。それだけ真仏が浄土真宗に与えた影響が大きかつたということです。

ご縁があれば真仏のよきな先人の足跡を辿ってみることも、歴史を肌で感じることもなり感慨深いものになるかと思ひます。

杉谷浄の

ラジオ案内

十月五日(火)
十一月二日(火)
十二月七日(火)
一月四日(火)

FM・N1(七十六・三MHz)で午後一時半から一時間放送します。番組名は「生活一番シャトル便 住職のよもやま話」です。再放送は放送日の週の土曜夜八時からです。インターネットでも聞けます。

『心の相談室』

毎月第四土曜日
午後三時～五時
東別院横

「いちちょう館」二階
相談料無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等を、僧侶がお聞きします。

杉谷 紬



カンボジアに行つて

今年の三月、私はカンボジアに観光旅行に行きました。出発前は、アンコールワットなどの世界遺産がある国なので、経済的に少しは発展しているのかと思つていましたが、実際に行つてみると観光産業だけしかないのかという感じがしました。

今年三月、私はカンボジアに観光旅行に行きました。出発前は、アンコールワットなどの世界遺産がある国なので、経済的に少しは発展しているのかと思つていましたが、実際に行つてみると観光産業だけしかないのかという感じがしました。

今年三月、私はカンボジアに観光旅行に行きました。出発前は、アンコールワットなどの世界遺産がある国なので、経済的に少しは発展しているのかと思つていましたが、実際に行つてみると観光産業だけしかないのかという感じがしました。

今年三月、私はカンボジアに観光旅行に行きました。出発前は、アンコールワットなどの世界遺産がある国なので、経済的に少しは発展しているのかと思つていましたが、実際に行つてみると観光産業だけしかないのかという感じがしました。

上の料金でした。私は観光客と現地の人とは、同じ場所にいっても物価が違うのではないだろうかと思つていました。そしてカンボジアの貧しさが見えた気がしました。

それでは、どうすればこの貧しさから抜け出せるのでしょうか。原因の一つは、この国では以前たくさんの方が殺される内戦や虐殺があつたので、大人が少なく子供がとて多いという人口の構成にあります。だからどうしても子供も働かなければならないのです。しかし、だからこそ教育に力を入れることが必要だと思つています。

カンボジアの学校は二部制になつていて、午前と午後のどちらかしか行くことができません。また、家庭の事情で学校に行けない子供たちもたくさんいます。

私は旅行中に同じ年の少年に会いましたが、彼はまだ小学校三年生でした。彼が生まれる前にお父さんが



すぎたに つむぎ
プロフィール
平成八年生まれ。
徳法寺杉谷浄の第四子。
現在錦丘中学校二年生
カンボジアは初の海外
旅行だった。

真宗豆知識

明治維新と宗門

明治維新は、長州藩と薩摩藩を中心とする勢力が、徳川幕府にとつてかわる大きな時代の転換期でした。

ところが維新における大谷派宗門の立場は、必ずしも安泰ではありませんでした。そもそも現在東本願寺のある烏丸六条の土地は、徳川家康から寄進されたものでした。そして東本願寺は江戸時代、徳川家から手厚く保護を受けました。ちなみに江戸時代には東西両本願寺は、格式十萬石・実力百万石という評価を受けていたそうです。

ところが、明治維新になると一夜にして徳川幕府が明治政府の倒すべき敵となったのです。同時に幕府から恩顧を受けてきた東本願寺の立場も危ういものとなりました。

徳川慶喜が、大政奉還を

行ったのが慶応三年（一八六七年）で、翌年の一八六七年が明治元年となります。この年の正月五日の夜、当時の門首殿如上人のもとに朝廷から使いがきました。そこで新政府に忠誠を示すことを勧告されたのです。それに対し東本願寺は翌六日に、新政府に敵意を持たないという誓約書を提出しました。

そして本願寺はすぐに明治政府に対して献金を行います。その額は、一万七千両とも二万四千両とも言われています。これは今の金額にするとおよそ二億から三億円になります。朝廷や新政府に敵対しないという忠誠のしるしに、これだけの大金が必要だったのです。この年明治元年、新政府軍は鳥羽・伏見の戦いに勝利します。思えば三百年間保護してくれた徳川幕府を倒す軍資金の一部を負担するという、きわめて苦しい立場を担わされたことになります。

さらに明治二年には、北海道開拓が仰せ付けられます。これは札幌に向かう伊達市の尾去別から札幌の平岸にいたる約百六十キロほどの道路を開設せよという命令でした。本願寺は四十五万両と言われる膨大な費用を費やし、多くの御門徒の皆さんを動員してこれを成し遂げます。

榎本武揚らが函館の五稜郭の戦いに敗れて、戊辰戦争が終結したのは、この年の五月でした。いよいよ名実ともに日本が近代国家として再出発したのが、この明治二年なのです。

一方でこの北海道開拓事業に参加させられたことは、教団に思わぬ幸いをもたらしました。開拓に伴い数多くの説教所を作ることが許されたのですが、それがきっかけとなって、真宗の教えが北海道の各地に広まることになりました。現在でも北海道では浄土真宗の御門徒が多いのです。今、大河ドラマで「龍馬



カンボジアの遺跡で遊ぶ子ども 杉谷撮影

伝」をやっています。ここにご紹介した宗門のご苦労は、幕末の志士たちと比べ、決して格好のよいものではないかもしれません。それぞれではありませぬ。それどころか道義に反するところすら見受けられます。しかし歴史には光と影の両面があるといえないでしょうか。さしずめ本願寺は影の部分を支まされたということがいえると思います。(彰)

本の紹介

マンガで分かる

心療内科

原作 精神科医 ゆうきゆう
作画 ソウ

少年画報社
六四八円十税



また、精神科という言い方以外に、この本のタイトルのような心療内科という言葉ができて、入口をくぐるのに抵抗が少なくなってきたことでもあります。

私が子供のころには、精神病院というと、子供心に近づくことさえはばかれる、恐ろしく敷居の高い所でした。それが今では、うつ病をはじめとして、様々な精神疾患が比較的日常生活で語られるようになっていきます。

りません。今回紹介する本は、ふんだんにギャグが盛り込まれていて、中学生でも笑いながら病気の事や、診察の事がわかります。

ここに来るまでにはたくさんの方々の苦労があったことと思いますが、いくら精神疾患が以前に比べれば身近な病気になったとはいえ、家族や近い友人に患者がいらない人にとっては、いま一つどのような病気なのかわかりにくいものであることは、今も変わりがある

もありませんが、内容は本格的です。

五人に一人が何らかの形で生涯の内で一度は精神疾患にかかるというデータもあります。他人事だとは思わず、自分は大丈夫とは思わず、家族と一緒に読まれてみてはいかがですか。

(浄)

各寺のご案内

◆常徳寺

金沢市寺町

五丁目一番二九号

TEL二四一―二六四九

◎報恩講

十月十日(日)

午前十時よりお逮夜

午後一時半よりお日中

◆徳法寺

金沢市野町

二丁目三二―四

TEL二四一―五二一九

◎お講(石坂同信会主催)

毎月二十一日

午後七時半より

講師

十月 桐山 信英

十一月 杉谷 浄

十二月 藤塚 昭久

一月 杉谷 浄

ご自由にご参加ください。

編集後記

以前、第二子の美乃里の文章を載せたことに味をしめて、今回は第四子の紬の文章を掲載しました。美乃里は高校生でしたが、紬はまだ中学生なので幼さが残っていますが、私が中学の時に比べればたいしたものです。ちなみに今回の本の紹介は第三子の伊吹に助けてもらいました。校正は妻にもお願いしていますし、家族に支えられて今回も発行できました。今後も皆に協力してもらいながら続けていきます。(浄)



編集委員

西山 彰(常徳寺)

杉谷 浄(徳法寺)